

エ 危機管理マニュアルの見直し

「学校の危機管理マニュアル作成の手引き」にも示してあるように、マニュアルは一度作成した後も、訓練・評価・改善を繰り返し行っていくことが必要である。とりわけ、訓練を通して明確になった成果や課題は、職員間で共有して柔軟に見直していかなければならない。今年初めて予告なしの避難訓練を実施したが、児童の心理的ケアや一時避難場所、経路についてなど新たな課題も見えてきた。今後も、実際に機能するかどうか訓練等を基にして検証を続け、定期的に見直しや改善を行っていきたい。

○ 時間の設定	ちよつとよかったです。
○ 避難の様子	体育館の舞台上にちよつといました。 頭を守る行動と、ざがしている子が多かったです。
○ 事後指導	机の下にはかくれたいけど、上から物が落ちてきそうな場所にかくれている子もいたのて、どこにかくれたいよかったです。
○ 児童の感想等	体育館は舞台上から落ちてきそうなものがたくさんあるし、フロアのところだと電球があてあぶない。どこに逃げたらいいのかわからなかった。
3 反省	

〈予告なし避難訓練の反省より〉

オ 特別授業・学校行事

(ア) 木造宅耐震化普及啓発出前授業

10月18日の3・4校時に4・5・6年生を対象に愛媛県庁建築住宅課の職員を講師に迎え、耐震化普及啓発出前授業を行った。過去の地震例をもとに、地震被害の様子や住宅を耐震化することの必要性を学んだ。その後、木造住宅の骨組みを紙で工作し、耐震補強(筋交い)のあるなしで家の揺れに違いが見られるかどうかを確認した。住宅を耐震化することで、建物の崩壊の危険性が減るだけでなく、崩れにくいことで建物の下敷きにならない、道路がふさがれず人の避難経路や緊急車両の通行経路が確保できる。その結果、被害が大きく軽減できることを実験を通して感じ取ることができた。児童たちは、住宅を耐震化することへの関心が高まった。と同時に、耐震性の劣る古い住宅に住んでいるかもしれない祖父母等に対して、児童から積極的に働き掛けるなどして、家族や地区住民の防災意識の高揚につながることを期待している。



〈紙の模型を使って耐震性を確かめている様子〉

(イ) 社会見学遠足(高学年)

10月29日に高学年児童は社会見学遠足で広島市森林公園を訪れた。園長の副島さんから昨年の西日本豪雨で受けた被害の様子を紹介していただいた。1年以上経過した今も、斜面が崩落した生々しい跡が残っていた。何か月も閉鎖していた公園は、現在復旧して多くの方が来場できるようになったが、危険箇所はフェンスで囲ったりブルーシートで覆ったりしていた。岩城島は地区によって急傾斜地も多く、土砂災害警戒区域に指定されている箇所が多いことを児童は知っている。そのため、崩落した現場を目の当たりにして、自然災害の怖さを学べたように思う。また、副島園長の話では、復旧に向けて多くの人々の支援があったそうだ。物流が途切れて生活物資が不足したり、多くの道がふさがれて移動がままならなかったりする中で、公園を再開したいという多くの人の熱い思いを、私たちは学ぶことができた。



〈豪雨により崩落した斜面の様子〉

2 岩城中学校の取組

(1) 現職教育の推進

ア 研修会等の報告

5月31日に実施された総合危機管理等研修会及び7月3日、4日に実施された教職員防災士養成講座での研修内容を全教職員で共有し、防災に対する意識の向上を図った。総合危機管理等研修会では、学校管理下における怪我や病気に対する応急手当について、具体的な対処方法を教わった。また、教職員防災士養成講座では、2日間にわたって防災・減災に対する研修を受けることができた。その中でも、防災に対する基本姿勢として、「疑わしきは行動」・「最悪事態を想定して行動」ということを常に頭に入れて防災教育に取り組むことが必要であることがよく理解できた。この2つの研修報告は、教職員の防災に対する意識を高めるのに有効な研修であった。

イ 避難所運営ゲーム（HUG）を活用した研修

「避難所運営ゲーム（HUG）」は、避難者を優しく受け入れ「抱きしめる」という意味を込めて、避難所・運営・ゲームの頭文字を取って名づけられたゲームである。能登半島地震や中越沖地震で避難所運営が注目されたことをきっかけに、静岡県の職員によって開発された。カルタほどの大きさのカードには避難者の状況が書かれており、そのカードを避難者に見立てて、体育館や教室に配置していくものである。カードには、「妊娠6カ月」「ネコを連れてきた」「吐き気がひどい」「耳が聞こえない」などといった、避難者が抱える様々な事情が書かれており、避難所のどこに入ってもらうのが適切かを話し合いながら、1家族30秒程度の短い時間で配置を決めていく。

岩城中学校では、夏休みに教職員研修としてこのゲームを行った。ゲームの内容を説明した後、役割分担などを決めずにすぐにゲームに移ると、積極的に発言する人、みんなの意見をとりまとめて決断する人、違った視点で物事を捉える人など、活発な議論が繰り広げられた。「正解が用意されているわけではなく、その時々で瞬時に最善だと思う決断を下す必要がある」「迷う時間が多かったけれど、繰り返しやることで、避難所運営の基本が見えてくる」「どのような問題が起こるかが想定できていると、早めに対応できる」という感想が述べられるなど、よい研修となった。

このゲームは、多様な価値観をもつグループで行うことで話し合いがより活発になるので、PTA研究大会や参観日の学級活動でも活用することとした。



〈避難所運営ゲームHUGの研修の様子〉

(2) 防災学習部会の取組

ア 救命救急講習会

6月26日に全校生徒、教職員を対象に救命救急講習会を行った。上島町消防本部署員の方々の指導を受けながら心肺蘇生法やAEDの使い方、けがの応急手当の仕方を習得した。例年は学年ごとのグループで講習を受けているが、本年度は、部活動ごとのグループと教職員の5つのグループに分けて行った。危機が起こった時に、必ずしも教員や大人がそばにいるとは限らないので、時と場に応じた判断や行動がとれるような場面を想定して実施した。

本校では、平成20年度より、毎年全校生徒・教職員が3時間の講習を受け、普通救命講習修了証を取得している。活動を通して、「毎年講習を受けているから、よりスムーズにAEDが使えた」「いざという時に命を救える人になりたい」「みんなが講習を受けて、助けられる人がもっと増えてほしい」といった感想が見られた。

イ 保健体育委員会による集会

保健体育委員が中心となって、防災意識を高めるための集会を行った。

6月12日の集会では、「防災グッズ準備していますか?」というテーマで、準備しておきたいグッズについて学習した。始めに各自が必要だと思うものを予想したあと、実物を提示しながら防災バッグの中身を確認した。また、集会での学習を踏まえて夏休み前には、保健体育委員会から「島内にある防災に関する標識を探そう」という課題が出され、夏休み中に生徒が実際に地域に足を運んで、防災マークの種類や場所を確認した。

9月26日の集会では、「防災表示や看板を知ろう」をテーマに、防災に関する表示や看板がどこにあるか、またどのような意味があるのかをみんなで考えた。

集会を通して、日頃から意識して生活することが自分の命を守ることにつながるということを実感をもって捉えることができた。また、1年生は、この後の活動である、「校内安全マップづくり」「岩城島防災マップづくり」へと意識をつなげていくことができた。

ウ 1年生の取組

中学1年生は、身近な場所で災害が起こった時に、自分で判断し、命を守る行動（自助）をとることができるように学習を進めた。特に、南海トラフ地震の発生を見据えて、地震発生時に起こる災害を中心に学習を行った。



〈救命救急講習会の様子〉



〈救命講習修了証〉



〈防災グッズを確認している様子〉



〈防災マークを確認している様子〉

○ 「校内点検と校内安全マップの作成」

日頃生活している校舎内を点検し、地震が発生した際に危険と思われる場所を「落ちてくるもの」「倒れてくるもの」「移動してくるもの」の3つの視点でまとめた。校舎内には、地震の際に「落ちてくるもの」や「倒れてくるもの」が数多くあり、割れたガラスの飛散も予測されることが分かった。

また、事前にできる安全対策や地震が起こったときの避難行動についても話し合いを行った。地震発生時に「廊下にいるときは、窓ガラスから離れて廊下中央で、頭を手で覆って低い姿勢をとる」「近くに教室があれば、教室内に避難して机の下にもぐる」「体育館や運動場は、遊具や体育器具、照明から離れて中央で低い姿勢をとる」などの避難行動を具体的に考えることができた。また、校舎内の点検を行う中で、トイレが比較的安全な場所であることに気づき、「扉を開けて、揺れが収まるまではその場にとどまる」など、場所に応じた行動を考えることができた。

校内のAED設置場所や消火栓、消火器など災害時に役立つものの存在についても確認し、危険箇所と合わせて校内安全マップにまとめた。完成した校内マップは、文化祭で発表し、校内の危険箇所や安全な場所、いざという時の対応について、全体で共有した。

校舎内点検の際、校訓が書かれた額縁は落ちてガラスが飛散する可能性があるため、軽量のプラスチック製に取り替えるなど、学び、考えたことを実際の安全管理にも生かした。

○ 総合的な学習の時間「岩城島防災マップの作成」

中学1年生は、校内安全マップを作成した要領で、島内の防災マップを作成した。防災マップ作成のためには実地踏査が必要であるが、1年生だけでは島内を網羅できないので、同じ地区の2・3年生とともに、岩城地区のハザードマップを活用しながら自宅や通学路、避難所までの経路を巡る計画を立てた。まず、各地区の一次避難場所や二次避難所、土砂災害警戒区域や津波などの予想されている災害について確認した。また、地域での生活を振り返り、どのような危険や防災設備、資源が考えられるかを話し合い、調査の際に見るポイントやルートを決めた。

各地区の調査の際は、中学生と担当教員だけでなく、各地区の地域住民の方にも多数参加していただくことができた。事前に立てた計画を基に、地域の防災士の方や地区の防災担当の方の説明を聞きながら、担当地区の調査を行った。災害発生時や登下校時に危険だと思われる場所や一次避難場所、災害時に役立つ防災設備、資源などを写真に撮りながら確認することができた。また、過去に災害があった場所についても教えていただき、防災マップ作成に役立てることができた。



〈校内点検の様子〉



〈校内安全マップの作成の様子〉



〈実地踏査計画を立てている様子〉



〈各地区の実地踏査の様子①〉